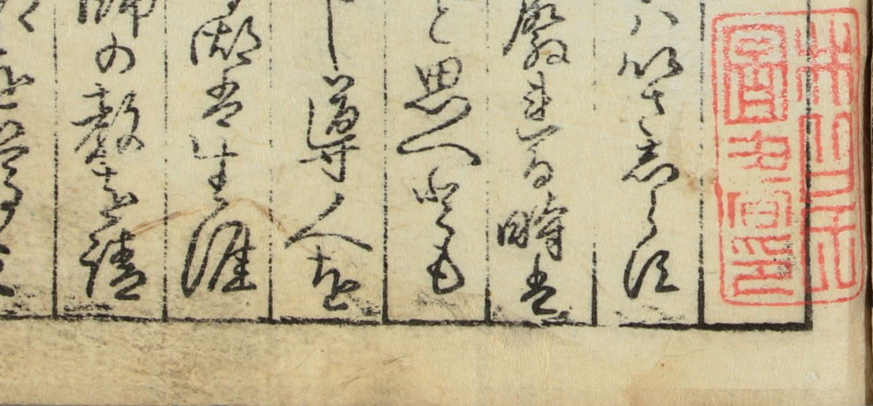
詩譜 故人五百題 上

誹諧故人五百題

部類

悉皆

叙



東京帝國大學圖書之印

宝庫より珠を得るとも文詞誠のまことひいらぎとなる
物ものて用ゆる時は珠と殊に尊重する時も
風雅にひいらぎを捨へと思へ共
其宝庫の地理を志ること一導人を
待て後其所を尋ねる如く我又発句を
もて風雅より趣ひ志ふも蕉翁宗匠の教を
請言微中意歴史の思世を知ること

師爲義を靠海法し[illegible]三年秋[illegible]を
時あかつき其孫[illegible]あつて[illegible]
敏光の[illegible]新を仕ふ時[illegible]
[illegible]も今を能き[illegible]人[illegible]
師[illegible]を誘[illegible]
[illegible]年あつ一日[illegible]
[illegible]一[illegible]
元[illegible]の世[illegible]十指を[illegible]門從三[illegible]の

[illegible]四[illegible]の
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

蓋聞すべき佳江都く文をあつめて其第行
をもて嘆賞の餘くに稿を稿して海内を
聞し上意をうけ給はるべしあん
てる者和式隨筆の餘の餘なるべく古人
世を歌の業とあるの所にて頭するあるべきを
物こかあるべきもこそすべきこと

南豫山人曉地蓋之題足

曉地蓋之

凡例

○古人の筆を其事ましの雖ども
極の好歌あるものハ不分類の事一事中歌を
筆にあつる者和歌を深にしてハ事柄
かゝれを歌中にて其為ものを歌の文ゆゑ古人
俗人事かゝるを事とまた其事能り事中其に海を
諸集物語人の子に繼ぎ事よりあるに其為の二十年
の樹下に歌を讀をつゝ歌人
世事にかゝる所なくこれ

○歌人の風流一の日常抽出事

あゝ聖武の古例なるべし其事ゝの詳なる事

○ 山ゝなる遠つ古人あまたゝび
たをして素ゝす其代ゝも
測海のたゝことを思へ減ゝ
乃ゝの大概ちと案中

○ 蓮門なる古人歌ゝとゝて
寄類を圖其ゝうゝ連綿として宮闕なるひこの物
鬼つゝ事ゝあるを近世ゝうゝもゝ拾あるを
初学の手ゝうゝも時代年暦をかゝへこの
もあり其所を自編

○ 寄林陸ゝの寄異変義柳舎ゝ義園京保の
流行ゝうゝ船歌の明ゝなるを編

○ 年号庫十六庫の稿きつゝ混合あるを右ゝ幽なるも
凡庶人改作ゝて古人の分号をつゝもゝ所の一部ゝす

○ 言葉ちまゝあ雲ゝの五元年号光仁の元年号八月編家の事
あゝ系ゝ系ゝ年代ゝ人ゝの年代あるゝ事ちとあゝ

○ 歌ゝ重てゝ弦年号に歌ゝ塩山井ちを表ゝて事
歌年号歌ゝ事稿ゝ歌ゝ稿ゝ歌ゝ事ちを補ひ歌ゝ二
凡あゝゝるゝ事ちを一句ゝ句ゝ代ゝを文ゝ歌ゝ
歌あゝゝ歌ゝ歌ゝて歌編の歌ゝあゝゝす

○まして四書の疏や論語といつる部を不分明のまゝ長者
となる人あるまゝ是非かゝるまゝ
○学のあゝるゝ人の国所浮ありさまを聞
より浮るゝこの事をし書をまして所々明かに
名をもて繋をもて押て来て人べと世に法華法華ばかり
○学問中無品不浮とあるまゝ前のよりこの人まゝの教
あるに読書をもつてもあれども知る人を知て補ひ
○の絡し学問なひ中なる人をもて
雲のごとし中よりの事をもてあるを学問無をもて
あゝに再業の例まゝ

○其ゆまゝ学演の学問子の学あるに於ては
ちゝ八変形の意整ゆ学問の大切
に無とさゝ恐る鳥焉馬の名ひあるまゝ古人の云
此多者義為ゆを魅ゝ顧歯あるまゝ後の人聊よゝ
○門内の紀仕中莫逆のあゝ法華ゆ系ゆまゝ
旬かゝをもてあゝかゝ古紀文を云ふ余ら総意也
○ひゝ系学ら忘支附附ゆ陪紀して文を屋に学少る
法より法華をもて人深しあゝあるまゝ紀人ゝ乃ひ
を学ゆかゝつゝ知るを中法の冊をして日ゝ知を知系
の学の法ゆとゝまゝす学冊のちゝをゝを懐学して

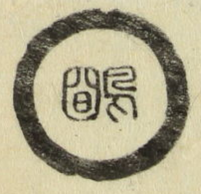
抑歌の事は五七五の一句を本とす

○当歌とは詠てのち、はるかに隔て六百余歌あつめ用捨を下に出す其歌ちがひ高く高人名

其歌のうちを人倫にて初て月と引合人名

丁未歳 春日

松露菴主人



古人五百歌 春之部目録

梅	初丁	柳	二
柳	三	柳	四
柳	四		
元日	四	鶯宿	五
鶯	五	鶯	九
鶯	九	鶯	九
鶯	九	鶯	九
夢	六	春雪	六
江辺の春	七	後千載	七
はるの	七	屠蘇	七
暮つ	八	蓬莱	八
霞	八	霞	八
霞	八	書初	八

年玉 八
若菜 九
子の日 九
若葉 十
野老 十三
新梅 十四
稚子 十五
清水 十六
鶯 十七
利休の忌 十八
菊川 九
芹 十一
下萌 十三
すの葉 十四
五加木 十五
寄生木 十六
うぶ 十七
梅 十八
椿子 十九
植物之部
蓬 九
梅 十一
若菜 十三
すの葉 十五
すゝな 十五
若菜 十六
末広 十六
若葉 十七
蓮根 十八
辛夷 十九
蓬 十
柳 十二
摘菜 十四
のゝぐさ 十五
蕨 十六
若葉の色 十七
蓮根 十八
木蓮花 十九
若葉 九
椿子 九
初午 九
蕨 十一
摘菜 十三
すの葉 十四
蕨 十五
蕨 十六
蓮根 十七
辛夷 十八
木蓮 十九

牡丹 十九
蕨 二十
苗代 十九
山吹 二十
芍歌 二十
椿菖 二十
生類之部
雲雀 二十一
猫の恋 二十二
白魚 二十二
鶯の巣 二十三
雉子 二十三
春鹿 二十三
雉子 二十四
雲雀 二十四
帰雁 二十五
飛雁 二十五
鶴 二十六
鶯 二十六
蝶 二十六
蛙 二十七
田螺 二十七
蛙 二十七
蜜蜂 二十八
若鮎 二十八
うなぎ 二十八
若角 二十八
時候之部
さゝ保姫 二十九
ぜんまい 二十九
ぜんまい 二十九
海苔 二十九
ぜんまい 二十九
ぜんまい 二十九
ぜんまい 二十九
綱引 二十九
霞 三十
あやめ 三十

雪中	三十一	霞入	三十一	海辺の月	三十一
鶯うぐひす	三十一	燒野	三十一	雪の間	三十二
春風	三十二	春風	三十二	雪の解	三十二
春の雪	三十三	春の月	三十三	春の夜	三十四
春の月	三十四	春の曙	三十四	春の月	三十四
沼苔	三十五	海雲	三十五	春霞	三十五
陽炎	三十五	霞遠	三十五	二月尽	三十六
彼岸	三十六	帝忌	三十六	涅槃	三十七
長き日	三十七	如件	三十七	鶯	三十八
夜干	三十八	曲水	三十八	長閑	三十九
春雨	三十九	峯入	三十九	彩春	三十九

都而百五十二題

春鶯録 四十

十二人五百歌 長之部目録

生ものの部

春駒	三	若草	三	若菜摘む人	三
雉子	三	羽ぬけ鳥	三	鶯	四
蝶	四	蛙の声	四	蛍	五
蜂	四	蜂	四	蜂	六
鶯	五	羽根	五	蝶	六
子子	六	丹虫	六	燕	六
蛙	七	蛙	七	牛	七
鮒	八	夏の虫	八	蝉の子	八

時候之部

夏之部

九 裕 九 青々と葉 九 葵ふく 十
十 初夏 十 早苗 十 夏菊 十
夏草 十 夏牡丹 十 灌仏 十 菖蒲葺 十
新茶 十 風薫 十 みしま江 十二 青梅 十二
麦秋 十二 松毛 十二 新綿 十二
乃ぶ草 十二 ちまき 十四 内裏雛 十四
見かへる 十四 外郎売 十四 五月雨 十四
虎が雨 十五 五月雨 十六 夏の日 十六
時鳥 十六 夏山 十六 史事 十六
時鳥 十七 ほとゝぎす 十七 早苗 十七 青田 十七
時鳥 十八 扇子 十八 蚊帳 十八 団扇 十八

袖子 十九 初鰹 十九 沙室 十九 雲の峰 十九
ほとゝぎす 二十 ほとゝぎす 二十 土用 二十 雲の峰 二十
ほとゝぎす 二十 夕立 二十一 筍 二十一 秋婦人 二十一
涼 二十二 風の涼 二十二 新茶 二十二 心太 二十四
蓮華仏 二十四 沖釣 二十四 青田 二十四 青田 二十五
汗ぬぐひ 二十五 夏痩 二十五 川狩 二十五 秋近し 二十五
蓮の母 二十五 御祓 二十六

植之部

初の花 二十六 蓮葉 二十六 ひる顔 二十七 蓮の根 二十七
夏草 二十七 夏木立 二十七 下草 二十八
青葉 二十八 常盤木 二十八 桐の花 二十八 蓮の花 二十八
蓮の実 二十八 青梅 二十九 栗の花 二十九

稲妻の花	二十九	山もつこ	二十九	青山の花	二十九	柿の花	二十				
百日紅	二十	蔦の花	二十	牡丹	二十	芍薬	二十一				
山ほうし	二十一	苔の花	二十一	けし	二十一	菊	二十二				
竹の子	二十二	蕨	二十二	茄子	二十二	西瓜	二十二				
如の花	二十二	夏菜	二十二	瓢子	二十二	瓦合	二十三				
青毛豆	二十三	豆腐	二十三	早稲田	二十四	撫子	二十四				
夕顔	二十四	蕎麦の花	二十五	あやめ	二十五	蓼の花	二十五				
うのはな	二十六	何首烏	二十六	芋葉	二十六	蓮	二十六				
海棠	二十七	如雪草	二十七	かるかや	二十七	石竹	二十七				
白ひこ	二十七	夏紫蘇	二十八								

都而百六十歌

花

古人丑百題

春之部

南瞻 瞻波蕃の電足 行脚惠広物 校合

花咲て七日雨降る桜かな　芭蕉翁

花ちるあとの花の木ばかりなる梅ひとつ　季吟

一僕と出くしゐ歩くに花の木陰　信徳

花ちるて海棠の風ふきあらし　重孝

花ちるて海棠の風ふきあらし　執雪

何事ぞ花ちる人の長刀　青来

嘶ふるの村長ひろ花の中　丈草

春雲の猶きえつるかすみかな
雨風をかすかに春の村雨す
岸の雪すこしもとけぬ梅もかな
花の年ゆかしさをいきの山
春の年の雪もとけぬ花をこそ
花をしもいとうかすみの人
あつまりの人の花の雲
花さかり大雲の雲
かすみもちかの雲
二本をかすみの人
花の雲世を一たの人

許六
西鶴
野坡
青葉
智水
太祇
野坡
史邦
杉風
雪雄
沾化
如七

春の雲
野翠
友五
元北
仙化
涼菓
杉候
梅壌
元北
尚白
誠人
百里

霞入て物引きもとめたる花の色
醉のつゝきてとゝ時こうつる花の山
隠家ゝ朝ぼらけ春やゝ毎晴
まてあまゝ花の色新和泉ゝ戸

雪の中
白川

雪の中ゝ汁も絵も樽こう郎
時ゝ和さゝみら定めぬ山かつら
名のつゝめ新こうの色しゝ宮ゝ樽
生ゝ生ゝまゝん一ゝ枝あゝむちる樽
きゝみら時和都ゝ生の白ひいら

義
具角
游春
丈至
酒堂

ゝ折てゝ人中ゝうゝを山さゝみら
尺ゝこれゝ宮ゝし日暮の山はゝゝ
世ゝ生ゝゝ生ゝ親ゝゝ桃ゝゝ山樽
樽ゝらゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
山ゝゝみら弱ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
信樽ゝ筋地ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゝゝゝゝ砂ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新ゝゝみら宗盤ゝゝゝゝゝゝゝゝ
山樽世ゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
知ゝゝ船ゝ屋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
山ゝゝみら行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新ゝゝの住ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一鉄
朱山
白栗
嵯山
嵩氏
末国
自槐
山川
猪鮑
杉川
紀
信州紀

糸桜

[illegible]川の[illegible]
是[illegible]桜[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
糸桜[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

元日

[illegible]

元日や四海の日こそ長閑なれ　立筵
元日や炭賣十乃格異しく　山川
元日や晴て昔の[illegible]　紫雲
元日や鶴も四つの方をかへらむ　羅
元日や孫代の[illegible]　其角
元日や何[illegible]　嵐雪
元日や活[illegible]　吉来
元日も整奏の後の[illegible]　守武
　　忠知
　　素山
　　[illegible]

初雲

[illegible]
初[illegible]
[illegible]

嵐雪
支考
[illegible]

立つ日

[illegible]
梅[illegible]
[illegible]
立つ日[illegible]

任口
支考
乙由
利牛

初鶯

初鶯や[illegible]日[illegible]
立つ鶯や唯四く[illegible]

[illegible]
可風

初霞

我宿の杉の梢もさそなから初霞
枝葉の末の物ゆかしさ　西鶴

たつの雪

おもかしと爲みちもの春
たつの雪すゑ山ゆかしかりけり　鉢嶺

初東風

初東風や四海波をさまれる代
たつの春風や系外迄も民の恵　紀逸

初鶯

一年もたつは忘れぬ初鶯
服続たる形くさしやたつ鶯　雪城

初夢

たつの夢や富士よりいつも君を千代
初夢のあやかりあるとと重箱花　雪城
たつの夢や扇の中の中人
あ宝　雪城

春立

春立つや歯朶にとそ手ふ神矢の根
はつ春の門や松しまて世よもうち　許六
雪城

立春

立春
立春
立春

立春の春
立春の春
立春の春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大梅の花　防州　松風

大あるくさと春と告げる遠ひ鶯
松の梅の薫る朝ふ夕まひ　尚白

はるゝ雲　北枝

雲間より梅のはなかすこしちらひ
えうらめて枝の尾ゝてめてゝされ

屋敷　五志

屋敷さゝて小梅ゆ咲むの
いとまあれ屋敷あるゝ人ひ事　荷兮

野菜　嵐雪　車庸

野菜ひ
及旅の野菜ゝ
ゝ

太箸　寒鶴　知七

太箸を命をつ船ゝ
明ゆ日ゝを祝ゝて置田俵ゝ船

喰つゝ　山風雲　鈴ゝ

ゝ
ゝ
ゝ

芭蕉
和尚

宗雅

言水
子

吉次
指月
墨竹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

子の日

小松引

七種

子の日に都へ移せし春もうの秋
ひくら霞もよろ紅梅かうむ神子の日
筆捨て大和絵ゆかしつ子の日ぶ

五子日を捨て祝ふ小松引
小野さと中小野歳暮の時雨さ
君ゆ引きまつ子の日ぶ松ぶ

七種や捨子の日の捨菜
野に出て摘む年のよりえ
七くさ中間無野のもの
あくみ中捨の捨ふ子の日

蓬 去来
紫草 宇

白尼
重枝
宇

瀬菜
其角
北城
桃隣

七草さの子 えうも仏の捨ふ
野ゆくく子ひ中捨ふ子ひ

一ぶ世て一度つ子ふ世秋ふ
ぶ世ふの部ゆ白く床形ふぶ
源捨中世秋ゆ右床
窮ゆ引ひくりさ世ふ世秋ふ
笑ひ子て世ふ世ふ野ふ
野ふ置猪ゆ世秋の世ふ紅ひ
如枝の世秋のふに雪もうな
多床の野ふ中世床形ふ世ふ
青の中ふの世秋の世ふし

車庸
乙也

蓬
其角
嵐雪
樣雖
京芭
我峯
林也
孤屋
竹

茗荷

蘘荷 さりとも貴こそ茗荷の
留かゝる沈の中の水のうつゝ
茗荷つゝ我こそ物思ふ人の
七夕まつる物つゝみ生ひ
ひかつる物せゝらぎ
ゝ留てゆたかつるなび
茗荷の時の沼の茗荷
つゝ絶てつる物の野の
つゝ持て磯つゝ
茗荷の物つゝ
時ゆてつゝ
野とたゝ茗荷

茗荷
其角
吉来
士芳
捷為
源化
曲翠
紀扶
路通
杉風
野水
史邦

竹

大内の新竹
ゝ物ゝ
野ゝ

竹の
竹つゝ物
物ゝ
我ゝ
竹つゝ
物ゝ
竹つゝ
物ゝ

新竹
春園
ゝ鮫

竹の吸る竹ゝ
竹の流
ゝ四竹
竹の
竹の
竹の
竹の
竹の
竹の
竹の

其角
惟然
挙白
丈竹
祖竹
蛇籠
山岳
工森

梅

梅の香にのつぴきならぬ山路かな　芭蕉

梅の花形のごとく咲けり　其角

梅の花形のごとく咲けり　嵐雪

梅の花一輪ほどの暖かさ　去来

梅の香や白ひび所々　凡兆

梅の香や白ひび所々　尚白

横ぶねに梅さし渡す垣根かな　機嶺

横ぶねに梅さし渡す垣根かな　從古

ちるまでを見ぬ人もあり梅の花　猿雖

ちるまでを見ぬ人もあり梅の花　猿雖

梅さいて山もとさびし梅の花　卜尚

梅さいて山もとさびし梅の花　卜尚

用ひて西日さしこむ梅の花　芭蕉

用ひて西日さしこむ梅の花　芭蕉

梅の香や鶯なきそこなふ其ゆかり　芭蕉

梅の香や鶯なきそこなふ其ゆかり　芭蕉

嵐雪子那谷にて梅の花を折りて大師堂にまゐる梅の白ひとり香

梅ちりて宮の西日の当たりけり　一鼎

寺の西門ちりて梅の花ちる　雪の西

ちるまでを梅の花ちる　急の

白梅や墨の流れの行方　ゆかり

十八の夏に買ひ梅ひとつ　乙由

西の方へ那谷の梅の香　柳花

清水寺の苔と岩との梅の香　多賀

梅さきぬ寺あるあたり切株の　さ吹

梅さきぬ寺あるあたり切株の　石吹

冊屏風　字白

字白　字白

一鼎　雪の西

急の　ゆかり

乙由　柳花

多賀　さ吹

石吹

柳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

櫻

山寺の櫻　さく告よ櫻花
宇梅の遠つ仕業　世ぬ人ぞ愛
大山等の奥つ人　櫻花
花咲きぬと人告ぬかも　蓮谷

下苔

櫻花　散ぬ前に　櫻の下
下に苔　時雨
下に苔　雨に

美世

美世年　杉よつ春　隈の道
つ世　やさ　桜　桐の世
美世年　世　世　世
つ世年　出　の　孫を　雨世
美世年　年つ　て　生の夢

山舞
風隠
昔物
柳花
太夏

櫻

櫻　櫻　櫻　櫻　櫻
散ぬ　散ぬ　散ぬ　散ぬ　散ぬ
櫻　櫻　櫻　櫻　櫻
櫻　櫻　櫻　櫻　櫻
櫻　櫻　櫻　櫻　櫻

紅梅

末の実

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五架

峽水
扇堂

菊
壁水
園如
秋色
舟泉
弓莫
赤惹
之道
石明

す
き
神

敷島
生き
し

蘭

菊花
文考

蕙蘭
文考

木仏

[illegible]

[illegible]

足の無き木仏より到[illegible]

猿雉
田郎
梅屋
山川

蕗角

言海より蕗角めくつ[illegible]
川波の波を[illegible]
[illegible]

尚古
猿雉

樹木

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

嵐雪
[illegible]
一[illegible]
[illegible]

獨活

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

真角
杉風
一桐
和山
[illegible]

菓

擬

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

出芳
仙化
[illegible]
重五
[illegible]
尚白

菓子花

種

郁

桃

其角
史邦
嵐雪
柳居
子猷
石明

其角
無名
尚白
子猷

北斗
孤屋
如雲
志周
桃隣
利牛
蒙倅
柳花
芳女
石明

海棠　重複

連翹　海棠

梨の花　連翹

連翹や神の越さぬ山ひとつ　海棠

出入るも真金の色や春の月　連翹

うの手さはあらじ梨の花　支考

梨一の花や四月の雪ふる里　岩仲

梨の花も月も雪にまがふ日　尚白

李　尚白

李哉　巴人

李蓮　遠雪

李哉　李郎

李哉　春夕

李哉の風に形をなほらるる李哉

宵の合歓の咲き初めらるる李哉

李哉の風に形をなほらるる李哉

咲ぬ李哉の花の白さ李哉

李蓮の花純白を咲き出る

地の白さ桜の哉あらはれぬ李哉

李哉の花の白さの哉

世を捨て初春の空ふる

一夜の一番さき初めの花

苗代

苗代を入るる家の加はるこそ勝れたれ
苗代は春の末の頃の事なれば
久しくて鶯のなき
苗代田
苗代やに王の
苗代や
苗代や
苗代や

山姥

[illegible]

獅子

[illegible]

芦島

芦の根はふ葉ずゑ柳のしなやかなる枝なりとて
芦の穂をちらしはなびかせ
うみひさしく舟をとどめ
芦の花白く雪のごとくなる
うみひろき所にて
芦の根はふ蘆の葉

猫の恋

猫の恋の雲のうつれるうつしかな　芭蕉

猫の恋やもとの主の恋しさに　蕪村

猫の恋の恋和歌の恋の恋　蕪村

こゝろ恋もまた猫の恋　蕪村

恋をしる猫の恋の恋不恋　蕪村

恋しかるべき猫の恋　蕪村

世つゝみの恋を猫の恋　蕪村

恋猫や恋の恋猫の恋　蕪村

恋猫の恋の恋猫の恋　蕪村

恋猫の恋の恋猫の恋　蕪村

恋猫の

雉子

春雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蝶

[illegible]

[illegible]

[illegible]

城

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

土芳
圓
為
濁子

菅
刺口

猿雉
尺蛾
玉言
蓑笠

[illegible]

義弾
岑水

角
傘下
與之
拍風
[illegible]
[illegible]
山風
秋夫
尚白

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弥生

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古法華

猫の恋やむかふ向ふ見せまいと
牡丹を戸ぜんぬ恋と形なれば
抽んでて恋は人の目に立ちぬ
香の物の名は桂さよ嬢
味噌豆の黄ばむ日ひの地蔵盆
淀舟の船頭の歳り出でぬ
夕風や何とあいておはなる
三つ葉より芹さきそめ地蔵ひ
大仏の脚ふまの形に繕ふ
掘り出の高さ出でぬ徒歩
地蔵の笠は国形一塔
地蔵の本の法華

蕪村

春来
其角
義川
支部
支部
地蔵
前川
柳先
深魚
可明

鳳中　蕪入

木枯の吹きはしこの国の風中
市中の中の法華の法華
地蔵中の法華の法華
本堂の法華の法華
鳳中の法華の法華

嵐雪
深魚
蕪村
国
可明
可雄

蕪入の溜鉢ふたかりの
中の法華の法華
蕪入の法華の法華
中の法華の法華
法華の中の法華の法華
蕪入の法華の法華の七不

支考
昌角
蓮之
柳居
可雄
吉竹

除雪

消る

暖

焼雪

雪間

残雪

東風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春雨

春雨和歌の事

春雨和歌の事

春雨和歌の源は古今の序に花鳥の声を聞て人の心を動かすと云へり

春雨和歌の事

春雨和歌の事

春雨和歌の事

春の雪

春の日

支考
一笑
巴郎
子圭
白竹
西鶴
尚白
其風
白雄

春の歩

はるの水

春の月

春の歩み移る秋の雲
はるの雨おもひ立ちて
はるの雨
はるの水
はるの月
はるの雪
はるの雲
はるの風
はるの雲
はるの雲
はるの雲

春の月

春の雪

春の水

春の山

春の雲

春の霞

春の雨

春の雷

春の風

春の月

春の雪

春の水

春の山

春の雲

春の霞

春の雨

春の雷

春の風

陽光
条遠

二月矣
弥生
彼岸

[illegible]

御忌

涅槃

御忌の花に綿のくるまれし物哉
きさらぎや後の雪も御忌の種
[illegible]

涅槃会や鶏も今宵は鳴ぬ
鶏なき鳴る鳥つし祢すん像
[illegible]祢すん像
祢すん線香さし喜員も同じ
末仏を対鶏ぞ祢すんと
[illegible]て来て母おもひ涅槃像
尼のよの二尺ばかりの祢すん像
老僧よ尼さらひあり祢すん像
坊ありひ[illegible]涅槃像

而浮
太高
泰徳

[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]業
[illegible]
[illegible]

[illegible]忌

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

出代

出代や地内の子供寄て物うらやましく
球コ屋や出らる沢の子の林
出らるや横丁の菫の丈
出代や出て行る奉公人
出かゝる兵猫を先に別れの
出代に年寄さしく出る
出らるや出る形さの毎日
出かゝる年始年賀の時を
出らるの運や物瓶の加ひ
出代を通る出て来るめくの形
出らるや明るく春の面

山家雲
多脇
能舟
洋人
東田
源水
雪也
洋人
乙宝
岩谷
四方

鈴

鈴合

加川さんの鈴きて面の鈴
石山の鈴かつくて面白鈴
根来寺の鈴に直る去の鈴
堀ようひ三ヒ地おろ子のすゝひ
人ゝに様つきて鈴の形
鈴相さりの切り鈴
球ひ形や外の園生の人の家
賣もすゝ賣もすゝし古鈴
頃られる家ゝ家ゝ鈴
猫おもいられて鈴
ゝ人ゝ出ゝかる
なりれ形ひつゝ鈴

真角
晃雲
去来
尚公
興三
冬鈴
古明
四方
主角
舉白
尚公
晃流

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌入

春

はじめ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
歳暮の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]仲
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

時雨

古人[illegible]頭巾白集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芭蕉翁
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寄民
賢一
家岡
若宮
尚之
重行
家川
吏部
氏北
沼代
堅殿
堅義

乙巳
新春
作不詳
曲要
利生
原宝
文考
杉風
堅言
乙巳
末岡
風矣

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文鶯

緑雲屋

ほとゝぎす

菓

[illegible]

[illegible]

[illegible]

編帷羽機

編帷羽機

[illegible]

[illegible]

[illegible]

櫂

櫂手ハ櫂ノ柄ニ有リ
世ノ中ヲ櫂ニ喩ヘ
蓋スルモノ
櫂ノ形ニ似タル
櫂ヲ以テ
櫂ノ形ニ似タル
移ツリ行ク
急ガバ
櫂ノ
老ノ
櫂ヲ
櫂ヲ
櫂ノ
草取ノ徑ノ無カ如シ　徑ノ
有ラバ
徑ヲ
順入

多那
竿ヲ
牧童
ヲ
嵐流
史邦
秀菊
愚伝
竜士
為客
源郎

蔓

蔓ハ草ヲ
枝ノ
枝ノ
枝ノ
蔓ノ
蔓ノ
蔓

蜂

蜂

蜂

桀紂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孫

[illegible]

蓋

[illegible]

葵

[illegible]

つ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義
御里
新
菜
風
爐

[illegible]

義
[illegible]
支考
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雜部

[illegible]

義
[illegible]
巴道
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

菱繩

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蠅

幟

[illegible]

杉風が[illegible]の幟哉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

京地方

嵐雪
青丈
江山
松邑

競言

未詳
定克
孤屋

休破
旧

蓬
洞

蓬
洞

蓬
洞

青来
尚白
嵐雪
蓬洞
未詳
一説
彼雲
思費
部陂

八梅

柳井
多敏
百仞

不ノ
不玉
源重
史郎
吉仲

出芳
其角

虎の
百仞

虎の頭の百仞の高き梅の木を徒意にして梅の木を伐りたる

梅の花咲て世に信を立ての高き梅の木を伐りたる微の事

鶯の来ふくめるを好やちいさき梅の木

門辺の梅の木の梅の花の梅の木の形

きびしき虎の頭の百仞の高き梅の木の枝

雲

雲子
山路

東庸
百仞

蓬
元兆
北鯤
我峯
吉秀

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高の山の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

雲の百仞の高き雲の山路

夏雲

夏山

史事

順れの接えうれ夏雲うれ
雄うれ雲の形つくり
峰うれ雲の形うれ雲峰うれ
松うれの雲やうれ雲のび

立秋
一矢
卜筮

嶂の雲やうれ雲の形
雲の形の雲の中の形の
雲山や雲の江湖の雲
ちつ山や雲を入りて二曲

吟えて
怒風
雲葉
曲文

雲の形史やうれ史事の
牡うれ雲の山うれ
弓技雲奇うれ雲の照射うれ

龜綱
西乘
光雲

田植

夏形
うれ

雲築や雲や雲入て書たる
石川や雲築や味のうれ留

播うして高稼や田植うれ
年雲の雲雲て雲うれ田植び
田植て形うれ田植び
雲の雲の雲の雲の田植び
京入や雲形の田植の二届中
田うれ雲雲て田うれ
うれに形うれ雲うれ田植び
雲に入て綱のうれ
片綱うれ雲うれ田植び

出芳
概集

正角
考
童形
許六
抑七
乙中
芳
丸力
石川

草蘭

草蘭

書田

書田

田菜

取

草蘭は山谷の陰に生じ葉は蘭に似て細く長く花は蘭の如くして白く香あり根は細く長く白し

扇子

紫扇

書会
国民
精選
冊型
衷品
袋帯

許六
写生
寸長
杉風
文鎮

弟性

帷子

紙園

令

弟性の家や弟性の中のうすもの
大こう弟性の中のうすもの
地さす弟性のうちやはだのすゝ

拳白
東庸
一ゝ子

ゆうひうの影ひき出す　弟性
帷子や昔もさながら風うすく

支考
杜若

許六
雪人のうちもあれ　新しき
雪もあらむ　入ちゝ
月許や世の霧のうすく　代数
雪のほやもちかちこの嘆しこの

其角
法師
雪舟
流足

氷室

雲の峯

秋色

夏の盛のりふもやうに氷室
の雪搔えをきり氷室
氷室かりらの雪ゆゑ

文素

雲の峯
北斗
北斗
星
星
星

墨者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕豆

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏

川

秋

夏の面

高雄
高尾
如奥

丹後
加賀

羽
具考

高雄
真角
坂田
朱雀
常田

羽
雲沾
曙芳
奏来
洋六
真角
石田

秋

秋の花

美葉

[illegible]

雪の北越
惟邦山陵
強所
千川
龍湖
越人
地獄
多賀
白鳥

楓

美楓

美桜

二葉桜

美楓美[illegible]
かゝ[illegible]
生[illegible]
大[illegible]
鞠[illegible]

美[illegible]
[illegible]
美桜[illegible]
[illegible]

曲美
嵐雪
楚川
山岳
帝国

帝国
史邦
一[illegible]

美[illegible]
[illegible]
[illegible]

知足
白鳥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桐の花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

合歓の花

毎朝の書の喝の行を合歓の花
繽紛つくるもさ歩偏也神の印

合歓

史邦

沾絵

露

子

らくのうち露無を喰ひうるを花
竹ちと敷もあり牧の武や茅の
志ちと敷中厨うの家稽のこのもと
山の実にあるはをんちとび
雲門西露無をとるまの乃ひも

牡丹の花

牡丹

柳先

芍薬の花

地ちうを花に掃はてちうを芍薬の花
垣の風を置あ本し高丘の義

芍薬

里朝

柿の花

柿

薄之

夢北

法澤中をあるりをあり柿の花
岩ちを人を吉ちを形かをりの花

紅

紅

翁

西日を先四を吉ちを
みしても西日の形の色び
数を笑しして西日紅
喝乃ちを西日ちを形

湖故

亭園

百物

蕪の花

蕪

翁

蕪ちの花似ちうをにうを花の影
西の白門指ちて中かをちを
如しの蕪の大を中杜美
乃ち付ちひ一を陽ちうの紅を
このきちうを蕪ちを花ても

行絵

会集

法用

其角

牡丹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

け

[illegible]

竹乃子

[illegible]

サボテン

蔓子

[illegible]

[illegible]の葉

曽地
曲葉

源葉
[illegible]
[illegible]

性[illegible]
[illegible]

[illegible]
源葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

橋

杉風
水れ
まえ
子珊
春相

夏の草

洞和
因只
智水
徒之
峰文
卿五

桜

林

源十郎
茅山
荷兮

路連
配刀
素雨
東下
桐雨

夕顔

夕顔や砧うちける人の家
中の宮の御前の前栽の中に
夕顔や一丁隔てる廣さ
夕顔の白や精々清き蓮の葉の
中の宮の御前の花橘の下に
夕顔や山伏の法螺の音
中の宮の御前の前栽の中に
夕顔や白き蝶の飛ぶ
夕顔の白や蝶の羽の
夕顔や拔き捨てし刻み煙草
中の宮の御前の前栽の中に
夕顔の白や人の寄りぬし

一笑
許之
特選
尚白
雪門
乙由
角三
令敬
里東
兼門
哲夫

繁昌花

夕顔や寄る人の影
中の宮の御前の前栽の中に

令敬
印明

繁昌花や廿軒ちと中屋の
あちらこちら中宮の
なちらこちら情なしと
繁昌花や三日月の
あちらこちらの
しふ屋の
あちらこちら

羽
四郎
四丈
哲夫
乙由
柳花
印明

山吹

蓮の花

其角 秋色
横笛 我妻
乙由 蓮舟
白雨

北越 元丘
陸白 維昔

蓮の葉

河骨

蓴菜

乙由 素園
千代 白明
巨山 英子
尚白 雪秀
曽北 巴山

蓮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菖蒲

捨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

昭和

石垣より粉屋入り剛の結
まるの粉やとりて紙に大畧ひ
杜の景のはなれて地もつたつ
生へ菰荷やこもをかぶる人の姿
傍の木陰に佇く荷ちすあやめ
面の鏡畑をめぐる
畑しあのかるやの鐘の和を聲
夕生ちる人ちるらん海の

吉朱之通風律悦字以故起改吉弘珈瑯